

(別紙6)

山形県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

山形県のイノシシによる農作物被害は、平成25年度頃から増加しはじめ、近年は被害拡大には何とか歯止めがかかっているものの、6,116万円と依然として高い水準で推移している。
ニホンジカの被害は未だ顕在化していないが、各地で生息が見られるようになり、今後はイノシシと併せて対策を講じる必要が予想される。
山形県では猟銃により大型獣の捕獲を行う認定鳥獣捕獲等事業者は1者のみであり、県内全域での業務受注は困難である。このため、山形県猟友会に対し捕獲業務を発注しているが、今後猟友会の会員減少や高齢化が予想されるため、認定鳥獣捕獲等事業者の従事者に相当するような、高度な捕獲技術を有する若手人材を育成する必要がある。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

【実施内容】
認定鳥獣捕獲等事業者従事者相当人材育成研修会
・内容：ライフル・ハープライフル・スラッグを使用した実技研修
・実施回数：20回
・実施場所：県猟友会射撃センター（舟形町）、赤湯射撃研修センター（南陽市）
・参加人数：延べ76人

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

【評価】
(1) 猟銃による捕獲経験が浅い若手捕獲者が、研修会に参加することによって捕獲技術を磨き、大型獣捕獲に対する機運を高めることができた。
(2) 公安委員会の射撃指導員を講師とし、安全管理や現場での捕獲についての講義を併せて実施したことで、より安全な捕獲事業の実施に向けた意識の醸成ができた。
【課題】
(1) 県内では有害捕獲における事故が発生しており、若手人材に限らず、広く捕獲者に対して安全管理に関する研修会を実施する必要がある。
(2) 本研修会は、若手人材の育成に焦点を当てたものであるが、ターゲットである猟銃による捕獲経験が浅い捕獲者へのアプローチとしての効果的な周知方法が課題である。
【今後に向けて】
(1) 実技研修会に加え、捕獲従事者を対象とした安全で持続可能な捕獲の実施に関する意識の醸成のための研修会を実施する。
(2) 有害捕獲を実施する市町村の実施隊員や県ホームページなどで広く周知する。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

特になし

注：特記すべき事項があれば記入すること。